

第6学年2組 道徳学習指導案

- 1 主題名 働くことの大切さ (内容項目4-(4) 勤労 奉仕)
- 2 資料名 「いささかなりとも働いてこそ」 (出典 渋沢栄一こころざし読本) 4～6学年用)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本主題は、内容項目4-(4)「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをしようとする態度を育てる。」ことをねらいとしている。高学年の児童は、学級や学校の生活をただ楽しくするだけでなく、働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知り、学校や地域などの公共のために役立つとうとする心や態度を育てることが一層重要な時期であると考え。特に最高学年として、学校や地域のために、率先して自らボランティア精神を発揮して、学校や地域、下級生に対して、役立ちたいと思ひ、自ら進んでボランティア活動を行うことができるようにしていきたい。第1学年及び第2学年では「働くことのよさを感じて、みんなのために働く。」そして、第3学年から第4学年では「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。」をすでに学んできている。そこで、第5学年及び第6学年では「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。」をさらに深めていき、中学校での「勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。」につなげていきたい。

(2) 児童の実態について (省略)

(3) 資料について

本資料は、主人公高志の学校で東日本大震災の被災者に向けての義援金を集めるボランティア活動から、話が始まっている。代表委員として、帰りの会でクラスのみんなに義援金を呼びかけ、地域のボランティア団体にも参加して、募金箱が重くなってきたが、なにかすっきりしない……。母から、渋沢栄一が関東大震災の時、復興に向けて、努力した話を聞き、金額の多い少ないではなく、みんなのために自分ができることを考えた。そして、被災者のために、寄せ書きを書き、心も届けようと、児童会で提案したという内容である。話合いの視点として、次の4つの場面が考えられる。

- ①学校での義援金を集めるボランティア活動をしたとき
- ②地域のボランティア活動に参加して、たくさんの義援金が集まったとき
- ③母から教えられた関東大震災における渋沢栄一の活躍を知ったとき
- ④児童会の人たちに提案したとき

それぞれの視点では、以下の事をおさえて、指導にあたる。

- ①たくさんのお金が集まる方が良いと感じている高志の気持ちに共感させたい。
- ②自分が行った活動が本当に意味のあることなのか、疑問に感じる高志の気持ちを感じ取らせたい。
- ③渋沢栄一の言動を通して、人のために働く意義に気づかせたい。
- ④みんなのためにできることを考えた高志の思いを考えさせたい。

本資料では義援金を通しての高志の心の動きと、渋沢栄一や母の言葉などから人のために役立つと考える高志の変容を通して、働くことの意義を考える。さらに、人としての心の持ち方を一番に考えた関東大震災のときの渋沢栄一の思いを通して、ボランティアの意義、人のために働くことの意義を理解させ、積極的に取り組もうという心構えを育てたい。

以上の理由で本主題を設定した。

4 研究テーマとの関わり

研究テーマ

「夢とこころざしをもち、まごころとおもいやりのある上柴っ子の育成」
～中学校区における学校間連携及び家庭・地域との連携における道徳教育の推進～

この研究テーマを具現化するために次のような手立てを考えた。

- (1) 授業研究部
心に響く道徳の授業をめざし、日々の授業実践や研究授業を通して検証を進める。
- (2) 目指す児童像 高学年

心を揺さぶる効果的な発問の工夫を通して、主人公の生き方に共感させれば、自己を見つめ、心豊かな児童が育成できる。

(3) 本時の手立て

ア 導入の工夫

- ・導入の際に、アンケート結果を提示して、自分たちの実態について考えるきっかけにする。

イ 発問の工夫

- ・発問を精選し、中心発問の中に補助発問を入れるなど、子どもの心を動かし多様な考えを引き出せるようにする。

ウ 話合いの工夫

- ・道徳の話合いの座席をU字形にする事によって、友達の顔を直接見ることができるので、子ども相互で多様な考えを学び合い深め合えるようにする。

エ 書く活動の工夫

- ・自己を振り返る際、児童がじっくりと自己を見つめ考えることができるように、書く活動を取り入れて、必要な時間も確保した。

5 他の教育活動との関連

教科領域	月	行事・学習内容	めあて・ねらい	児童の意識
総合	4月	自然体験及びボランティア活動	・身近なボランティア活動に気づく。	・1年生の給食の手伝いがんばろう。
家庭	4月	きれいにしよう クリーン大作戦	・身の周りの整理整頓ができる。	・いよいよ学校の顔である6年生だ。
総合	1学期	ボランティア活動	・自分たちの身近な問題点に気づく。	・私たちにできることはなんだろう。
体育	6月	プール掃除	・下級生のためにプールをきれいにする。	・きれいにすぞ。
道徳	7月	よみがえれ日本海	・社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つことをしようとする態度を育てる。	・社会のためにできることって、なんだろう。
家庭科	7月	クリーン大作戦	・身の回りをふり返りきれいにする。	・1学期の汚れを落とすぞ。
体育	9月	地域の保健活動	・地域の保健活動に取り組む。	・なにができるかな。
社会	10月	明治の国づくりを進めた人々	・先人の生き方に学ぼう。	・渋沢栄一さんってすごいな。
学校行事	10月	運動会 親善運動会	・係などの仕事を責任を持ってやり遂げる。	・たくさん応援したいな。 ・みんなで力を合わせ優勝したいな。
社会	3学期	世界の未来と日本の役割	・世界を視野に入れた日本の役割について考える。	・今まで歴史を学んできたが世界とのかかわりが深いな。
特別活動	3学期	学校をきれいにしよう	・今までお世話になった校舎や周りの人に感謝して校舎内外をきれいにする。	・6年間、ありがとう。
特別活動	通年	アルミ缶回収など	・みんなのために、アルミ缶回収を行う。	・資源を無駄にしたくないな。
学校行事	通年	なかよしタイム	・異年齢集団で活動することを通じて、学年や学級の異なる友達と交流する楽しさを味わわせる。	・下級生のためにがんばるぞ。
学校行事	6月 11月 2月	資源回収	・身近なボランティア活動に気づく。	・資源を無駄にしたくないな。

6 本時のねらい

働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをしようとする態度を育てる。

7 事前指導

「働くこと」に関するアンケート調査をすることで、児童の働くことへの意識を高めるとともに、児童の実態を把握し、本時の展開の中の自己を見つめる部分で意図的指名ができるようにしておく。

8 学習指導過程

段階	学習活動 ○主な発問	・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価	資料時間
導入	1 アンケートの結果から、なぜ働くのか考える。	・人の役にたちたい ・体を動かせるから	○アンケート結果からもう一度ふり返り、働くことについて考えさせる。	3分
	課題 働くことってどういうことか考えよう。			
とらえ	2 資料について知る。	登場人物 ◎主人公高志 ・母 始めの条件・情況 ・大震災の義援金を児童会で集め、被災地へ贈ることになり、クラスみんなに呼びかけ義援金が集まってきたが・・・。	○高志に気持ちを寄せて、聞かせたい。	場面 絵 短冊 5分
	3 資料の範読を聞く。 ○高志の気持ちを考えながら聞きましょう。			
展	4 資料を読んで話し合う ①学校での義援金を集めるボランティア活動の呼びかけをしたとき、高志はどんな気持ちだったかを考える。			28分
	○学校での義援金を集めるボランティア活動の呼びかけをしたとき、高志はどんな気持ちだったのでしょうか。			

開 め る	<p>②地域のボランティアに参加して、たくさんのお金が集まったとき高志はどんな気持ちだったのか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんのお金が集まるといいな。 ・お金がたくさん集まればみんなの為になるだろうな。 ・お金を集めることがボランティアになる。 ・みんな協力してくれるかな。 ・被災地の皆さんは喜んでくれるかな。 ・少しでも、役にたいたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○被災者のためになるのは、お金や物であるという高志の考えに気づかせる。 ○義援金をたくさん集めることがボランティアであると思っている高志の気持ちを考えさせる。
	<p>○地域のボランティアに参加して、たくさんのお金が集まり募金箱がだんだん重くなるのに、高志の気持ちがすっきりしないのはなぜだろう。</p>		
	<p>③母から教えられた関東大震災における渋沢栄一の活躍を知り高志はどんな気持ちだったのか考える</p> <p style="text-align: center;">栄一の言葉</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">だれかに何かをしても、 らうことを考えるので はなく、今の自分な ら何ができるかを考 えることが大切である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だんだん募金箱が重くなってきたな。 ・うれしいな。でも・・・ ・なぜか、すっきりしないな。 ・学校では、想像できないような額を入れる人がいるな。 ・大人が集めた方が、お金がたくさん集まるな。 ・子供でなく、大人がやることなのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○義援金がたくさん集まり、うれしい反面なぜかすっきりしない、心の動きに共感させたい。 ☆義援金がたくさん集まり、うれしい反面なぜかすっきりしない、高志の心の動きに共感できたか。
	<p>◎母から関東大震災における渋沢栄一の活躍を知り、栄一の言葉から高志はどんなことを考えたのでしょうか。</p>		
<p>補被災者のために何か力になれないかと思う気持ちが大切なのと言った母の言葉を聞いたとき高志はどんな気持ちだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お金じゃないんだ。 ・気持ちが大事なんだ。 ・義援金を集めているだけでいいのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栄一の行動や言葉の意味を真剣に考え、自分の行動をふり返って考え始めた高志の心情に共感させる。 ☆栄一の行動や言葉の意味を真剣に考え、自分の行動をふり返って考え始めた高志の心情に共感できたか。 	
<p>○児童会の人たちに提案したとき高志はどんなことを考えていたのでしょうか</p>			
<p>④児童会の人たちに提案し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんな同じなんだ。励まされた気がした。自分にできる事って、なんだろう。文房具ならすぐつかえるな。 ・僕の気持ちが届くように。 	<ul style="list-style-type: none"> ○母の言葉から気持ちが大事なことがわかり、みんなのために何ができるかを考え始めた高志の心の変化に気づかせる。 ○高志がボランティアの意味がわかり、心から被災者の方々に寄り添いたいと思い、文房具や寄せ書きを自分で考えた心情に共感させる。 	

	たとき高志の気持ちを考える。	えるな。 ・僕の気持ちが届くように。 ・寄せ書きは心を贈れるな。	考える。 ○高志がボランティアの意味がわかり、心から被災者の方々に寄り添いたいと思い、文房具や寄せ書きを自分で考えた心情に共感させる。 ○物だけでない、心が大事ということをもう一度おさえたい。	
見 つ め る	5 自己を見つめる。 ○一生懸命働いて、みんなに喜ばれたことがあるのか。	・プールそうじ ・そうじ ・体育館での作業 ・1年生の給食のお手伝い ・アルミ缶回収	○アルミ缶回収などについてふれ、その時の心情を尋ねる。 ○これから自分が何ができるかを考え、自分の言葉でまとめさせる。	アルミ 缶回 収の 写真 ワー クシ ート 6分
終 末	6 教師の説話を聞く。	・心からみんなのために、役にたとう。		3分

9 本時の評価の観点

(1) 児童サイドの評価 <発表・観察・ワークシート>

- ・主人公「高志」の気持ちになって共感的に考えることができたか。
- ・働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをしようとする気持ちが芽生えたか。

(2) 教師サイドの評価

- ・児童のつぶやきを大切にし、児童の思考を深めることができたか。
- ・ねらいとする価値にせまるような発問を工夫することができたか。
- ・児童の考えを認め、称賛することができたか。

10 事後指導

- ・学期末の委員会活動の自己の振り返りを通して、その意義をもう一度考えさせる。
- ・床ピカピカ大作戦や、アルミ缶回収などの活動を通して、児童の活動を取り上げ、称賛し、活動への意欲を高める。

11 板書

